

## 全ての学は土木に通ず

藤井 聡

筆者は土木工学科を卒業し、現在も土木工学専攻に所属している。学会や行政などのお手伝いをする時も土木関連のものが多い。そんな中でも特に筆者は、人々の意識や行動などに関連する研究や仕事をする事が多いのだが、その関係もあって他分野の研究者の方々とご一緒する機会が結構ある。そんな時、初対面の方々とのお話におけるマナー的常套句として、「ご専門は何ですか？」と問われることも多いのであるが、「土木です」と答えるときまって「？」なるリアクションが反ってくる。既に何百回も経験した会話パターンではあるが、自分の専門が土木なのだから仕方ない。宇宙物理ですとかスワヒリ語文学ですとかの虚偽申告をしても何の意味も無いので、結局は「土木っていうのは——」なる話しをする機会を有り難く頂戴してしまうこととなる。もちろん、時間がたっぷりあって何かの話しがないと間が持たないというような時にはこの一連のやりとりが結構重宝したりするのだが、正直、十分な時間が無いときなどは困ってしまったりもする。とは言え、そんな経験を繰り返すうちに、その手の会話にも随分こなれてきた。

「土木って結局は、渋滞をなくしたいから、バイパスとか作るんですよ。でも、当然、皆がクルマを使わないと、渋滞も無くなりますよね、だから、渋滞対策のためにも、一人一人の“行動研究”なんてのも大切になってくるんですよ——。」

「土木って結局は、洪水が無くしたいと思うから、ダムとか作ろうとかするんですよ。でも、そういう大きいものを作ろうとすると、どうしても反対する方も出てくるんですよ。そんな時、もしも本当にそのダムが必要なんだとしたら、皆様にご理解いただくための“心理学”なんてのも必要になったりするんですよ——。」

「土木って結局は、“世の中が善くなればそれでいい”、っていうものなんですよ。でも、何が“善いことなのか”って、結構難しい問題ですよ。だから、何が善いのかとか何が美しいのかっていうことを考える“社会哲学”なんかも、最終的には必要になってきたりするんですよ——。」

等々、こんな説明をすれば、おおよその方々には一応ご理解頂けることとなる。つまりは、「土木って結局は——」なるマジカルフレーズを付けてしまえば政治学であろうが社会学であろうが、農学であろうが美学であろうが、なんだって土木と関連するものとして説明できてしまうのである。

こう考えると、土木とは何とも有り難いキーワードなんだなぁと改めて感心してしまう。どんな学問に興味関心を抱いていたとしても、その学問は結局は土木と繋がってしまうのである。多分、そんな分野は土木以外にそうあったものじゃないだろうと思う。全ての道はローマに通ずるのかもしれないが、全ての学は土木に通ず、なんてことも言えなくもない。